



City.Odawara.Kanagawa



受験者の皆様へ

小田原市は、自然やなりわい、文化など豊かな地域資源に恵まれた、地方都市のモデルのようなまちです。そのポテンシャルを最大限に活かして、将来にわたって経済、社会、環境が持続可能なまちづくりを、市民の皆さんと市役所が力を合わせて進めています。我々小田原市職員は、魅力的なこのまちの多様なフィールドで、様々な経験を積み、「市民の最良のパートナー」として、やりがいをもって仕事しています。我々と一緒に仕事をしたい人はぜひ応募してください。一緒に未来の小田原をつくっていきましょう。

採用試験に向けてのアドバイス

小田原市の採用試験は原則として人物重視を掲げていますので、ペーパー試験ができたかどうかということだけで採用を決めることはありません。この人と一緒に仕事してみたいと思えるような人を求めています。求める人物像「情熱と熱意をもって職務に取り組む」「自ら考えて行動する」「課題や目標に果敢にチャレンジする」はその象徴的な項目です。そのためにも毎年試験の内容は見直しています。小田原市の試験をぜひ受験してみてください。



職員課長 大木 勝雄

Introduction Of Senior Colleague



広報広聴課
主事 高橋 良輔
入庁7年目

小田原市役所を志望したきっかけ

小田原に生まれ育ち、都内の大学に進学し、都内中心に過ごす中で、海・山などの自然と、お城もついてくる小田原というフィールドの魅力を再発見し、その地域の人のために何か役に立てる仕事がしたいと思い志望しました。歴史が好きだったことと、入庁前からミュージックストリートなど市のイベントに参加していたことも志望のきっかけの一つでした。

小田原市で働く魅力

小田原市は都内などにアクセスしやすい交通網がありながら、森・海などの自然が身近な街です。それゆえに、多彩な職業や文化があり、また魅力的なライフスタイルを送っている人が沢山います。そのような街、人たちのために働けること、また、そういった人たちと一緒に何かができるということは大変魅力的だと感じます。全国を探しても、なかなかこういった環境には巡り合えないと思います。

現在の業務内容、仕事のやりがい

広報広聴課都市セールス係では、インスタグラムなどの市公式SNSアカウントの運営、市ホームページの管理、ふるさと納税、ロケ支援、移住相談と多岐にわたる業務をこなしています。写真撮影・動画撮影・動画編集などが日常的な業務として行われることは他の部門の業務とは違う部分かもしれませんが。民間企業含め外の方と交流する機会が多いので、常に新しい考えに触れ合えることや刺激があることや、活動的に取り組む人と出会えることで、様々な分野を深く学ぶことが魅力です。

受験者へのメッセージ

AIなど様々な技術が進歩していくなかで、市役所の仕事も新しい技術や考えを取り入れていかなければなくなっています。市民の幸せのため、既存の考えにとらわれず、柔軟な発想で物事を捉えられるような人が受験してもらえると、うれしいです。

小田原市役所を志望したきっかけ

当初は就職活動で民間企業をまわり、自分のやりたいことが見つからず悩んでいました。大学で法学部にいたため、漠然と法律に関わる仕事がしたいという思いから志望した公務員でしたが、調べるうちに地域の方と直接触れ合うことのできる地方行政の魅力を知り、自分にとって愛着のある小田原市を志望しました。

実際仕事をしてみると、小田原の風土や人柄の素晴らしさ、市役所のワークライフバランスに配慮した職場環境の良さに、やりがいを日々感じています。

現在の業務内容、仕事のやりがい

職員課で研修を担当しています。「研修担当」というと、職員研修をただ実施しているだけだと思われがちですが、私は、職員一人ひとりの採用から退職までのキャリア設計をサポートする仕事だと思って取り組んでいます。

効果が見えづらい地道な仕事ですが、常に情報をアップデートし、自治体だけでなく企業の先進的な人材育成の取り組みなども積極的に取り入れています。「誰もが自分の能力を最大限に発揮できる職場をつくる」。これが私の目標です。

小田原市で働く魅力

入庁8年目に神奈川県市町村課へ出向しました。同じ公務員とはいえ、組織風土も規模も異なる職場での2年間は大変でしたが、県や他の派遣職員とのたくさんの人脈や、仕事に対する視野が広がった経験は、今の私の大きな財産となっています。

小田原市は、国や県、他自治体への派遣はもちろん、全国の自治体職員と取り組む組織改革研修や、大手企業との異業種交流研修もあり、環境の変化による職員のスキルアップの場が多く用意されていることも魅力の一つです。

受験者へのメッセージ

今年は皆さんと直接お会いできる機会が少なく、とても残念です。入庁して10数年たった今、職業を決める上で、「何（どんな仕事）をするか」だけでなく、「誰とするか」もとても重要だと感じる事が多くあります。このページに掲載されている先輩職員のメッセージを読んで少しでも興味を持ったら、ぜひ、面接に来てください。ともに働くことを楽しみにしています。



職員課
主査 片山 久美
入庁19年目



地域政策課

主事 廣田 周作

入庁2年目

小田原市役所を志望したきっかけ

学生時代、小田原市内の高校に通っており、学生時代にお世話になった小田原市のために、何かできることはないかとずっと考えていました。大学卒業後は食品メーカーに勤務していたのですが、小田原市役所で社会人経験者の募集があることを知り、応募させていただきました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

現在の業務は、市内26地区の自治会連合会ごとに設立された地域コミュニティ組織の方々と、地域の課題解決に向けて会議を行ったり、地域イベントの企画・立案・運営等を行っています。地域の人と仲良くなり、一緒に地域の課題を解決できた時に、やりがいを感じます。

これまでで一番印象深かった業務

私が担当している地区で新たなイベントを開催したいと地域の方から話があり、イベントの企画・立案から運営までお手伝いをさせていただきました。それまでは、毎年開催しているイベントの運営補助ばかりでしたが、イベントを始める最初の段階からお手伝いをさせていただき、実施することができたことが、一番印象に残っています。

受験者へのメッセージ

地域の人と協働で地域の課題を解決するのが、地域政策課の仕事です。地域の人とコミュニケーションをとる機会が多い課ですので、人と話すことが好きな人、地域の人の立場に立って物事を考えられる人、明るく元気な人をお待ちしています！



子育て政策課

主任 石渡 陽介

入庁11年目

小田原市役所を志望したきっかけ

市民として市役所に来た時に、同じことで何度も不快な思いをしたことがあり、そのたびに改善して欲しいとお願いしましたが、改善してもらえないことがありました。そうした時に、市民として言っても改善されないのであれば、自分が職員になって改善できることは改善していきたいと考え、小田原市役所で働くことを志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

<現在の主な業務内容>

小田原市の子ども・子育て支援の指針を定める計画の策定や進捗管理を専門家などを行う委員会の運営や、未就学園児を持つ親が交流や情報交換、育児相談などができる施設の管理運営、その他、自治会や子ども会などの地域が児童の遊び場を管理するための事業費を助成する業務などを行っています。

<仕事のやりがい>

- ①子育てに悩み、ストレスを抱える親が求める支援に対し、既存の取組では何が不足しているのか、どのような改善が必要か、民間団体ではどのような取組をしているのか、官民が協働して取り組めることはないのかなど、課題解決に必要なことを考えそれを実施し、少しでも効果を得られたとき。
- ②既存事業を自分なりの視点で見直し、事務改善につながったとき。
- ③これまでの部署で築いた知識や経験を現在の業務に活かすことができたとき。
- ④事業を実施した際の効果が国や県以上に実感しやすいこと。

小田原市で働く魅力

森・里・川・海などの自然環境や城下町・宿場町として栄えた歴史、東京からのアクセス至便や箱根町と隣接しているなどの立地性、そしてそれらを背景に栄えた地場産業など、豊富な資源と可能性を秘めている小田原だからこそできることが多いです。また、資源と可能性が多いからこそ、部署を異動してもそれぞれの部署において自分の特性を活かし仕事ができることも小田原で働く魅力の一つです。

受験者へのメッセージ

公務員でも民間企業でもどこに就職をしても、それぞれの楽しさや厳しさがあります。自分の特性は何か、どういった仕事をしたいのか、やりがいをどこに求めるのかをしっかりと考えてみてください。私は市役所の採用試験を3度受験しましたが、焦らず民間企業や他の市町村に就職をしなくて良かったと思うほど、小田原市役所での仕事にやりがいを感じています。

私はこれまでに、住民税の賦課業務を市民税課で3年間、その後、環境省へ2年間出向、市に戻り、商店街支援を産業政策課と商業振興課で6年間担当し、今年度からは子育て政策課に配属されました。まったく異なる分野への異動により戸惑いを感じる一方、新たな分野で仕事をできる新鮮さや楽しさを感じることが出来ます。小田原にはあなたの特性を活かし、あなたなりにできる仕事がたくさんあります。ぜひ小田原と一緒にやりがいを感じられる仕事をしましょう。



エネルギー政策推進課
主事補 高橋 未紗
入庁1年目

小田原市役所を志望したきっかけ

「地元のために」と頑張る祖父や父母の背中を見て育ち、自分自身も地元のために全力を注ぎたいと考えようになりました。小田原市は何十年住んでいても新たな発見があるほど、魅力的なまちです。多くの方にとって自慢の地元になり、そして、市外の方が住みたいと思う魅力的な市になるような、そんなまちづくりに関わりたいと思い、小田原市役所を志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

環境部エネルギー政策推進課は、小田原市が持続可能な地域社会になるように、再生可能エネルギーの普及拡大、導入促進、再生可能エネルギーを活用した新たな事業を展開しています。私は、再生可能エネルギーの価値や新たな事業を市内外の方々に知っていただくため、HP等のプロモーションを担当しています。まだ小田原市にはないものが創られていく瞬間に立ち会えることは、とてもやりがいを感じます。

小田原市で働く魅力

小田原市は首都圏にありながら、森・川・海などの多彩な自然環境が揃っています。そんな自然環境と調和しながら育まれた歴史・文化・産業が、今日の小田原市の基盤だと考えています。このような地域特性は他市と比較しても非常に珍しく、そのような場所で働くこと自体に価値を感じています。恵まれた地域特性を活かし、「小田原市ならではの」取組を創出できることは、他にはない、小田原市で働く魅力の一つだと思います。

受験者へのメッセージ

私はまだ1年目ですが、上司・先輩・同期、みなさん優しく、雰囲気の良い職場だと感じています。さらに、小田原市役所には、新卒で入庁する方もいれば、転職で入庁される方もいらっしゃいます。さまざまな価値観を持った方と関わりながら仕事をすることは常に新しい発見があり、働いてとても楽しいです。「ここで働きたい」と少しでも思っただけなら、ぜひチャレンジして欲しいと思っています。

小田原市役所を志望したきっかけ

小田原で生まれ育ち、大学を卒業後、小田原を離れ、民間企業で働いていました。小田原を離れて過ごしていると、地元小田原の温暖な気候や交通の利便さにありがたみを感じる事が多い中、広報おだわらで職員募集の案内を見た祖父父母が私に知らせてくれたのがきっかけです。当時の私は、公務員はとてものハードルの高い職業と感じていましたが、自身が様々な形で小田原に貢献できることに魅力を感じ、応募しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

観光施設やイベント関係の連絡調整、観光に関する問い合わせ対応など、市役所内でのデスクワークがメインとなりますが、イベントでの本部対応、市外でのプロモーション活動、観光案内板の整備など屋外の活動もあり、業務範囲は幅広いです。

小田原を訪れる観光客数は年々増加しています。世の中の流行や関心を汲み取り、常にアンテナを張って、観光にどう活かせるか考えられる人には向いている部署であると感じます。

これまでで一番印象深かった業務

2018年7月の酷暑の中、9時間かけて、箱根湯本から三嶋大社まで箱根山を越える30kmにわたる日本遺産「箱根八里」を歩いたことが印象に残っています。

観光課の仕事は大きな課題があっても基本的に皆で乗り越えていくので、いざという時でも皆がいる安心感がありますが、30km山越えするのは己の体力を信じるのみ。ペースについていけない不安でしたが、ヒグラシの声や甘酒茶屋での休憩など癒される場面もあり、今となっては、楽しかった思い出です。観光課の仕事はデスクワークから体力勝負の業務まで多岐にわたると改めて感じました。

受験者へのメッセージ

市役所の仕事というルーティン業務を進めていく印象がありましたが、刻々と変わっていく情勢に対応するためにも、柔軟な発想、スピード、知識、市民に寄り添う優しい気持ちを求められていると日々の業務で感じています。

皆さんの今までの人生で得てきたことを小田原市役所で発揮していただき、これから楽しいこと・大変なことなど共に経験し、質の高い時間を一緒に過ごせると嬉しいです。



観光課
主事 足立 くるみ
入庁6年目



生活支援課

主事 鈴木 真依

入庁5年目

小田原市役所を志望したきっかけ

家族に障がい者がいたことで、物心ついた頃から「福祉サービスを利用する人とそれを支える人（支援者）」を身近に感じており、福祉の仕事に興味を持つようになりました。福祉系の大学へ進学し、社会福祉士の勉強や実習、ボランティアなどをする中で、「生まれ育った小田原の福祉に貢献したい」と思うようになり、施設や福祉事業所の職員ではなく、行政の福祉職を志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

自立支援係では、生活に不安や困りごとがある方の話を聞き、困りごとの整理や解決を支援し、保護係では、生活保護利用者の家庭訪問や生活保護に関する事務等、利用者が自立するために必要な支援をしています。

利用者が抱える課題を解決し、安心した生活を送れるよう支援することは簡単なことではないですが、利用者の自立に向けて、本人や関係機関と一緒に支援方針を考え実行することで、課題が少しずつでも改善していくことにやりがいを感じます。

これまでで一番印象深かった業務

生活支援課で実施している就労準備支援事業（就労に不安のある人に就労体験等を通して社会参加や意欲喚起を促す事業）の対象者で、10年以上買い物以外の外出がなく、人と話すことが苦手な方がいました。面談や作業への参加を継続するうちに、表情が明るくなり、話すことにも慣れ、軽作業やボランティアに継続して参加することができるようになりました。この方への支援で、その人に合わせたオーダーメイドの支援の必要性を再確認することができました。

受験者へのメッセージ

複雑多様化した課題を抱える方が増えており、自立の定義も一人ひとり違うため、支援の方針や対応に悩むことや苦労することもあります。その分やりがいのある仕事だと思えます。私自身、福祉職として働き始めて5年目ですが、日々勉強中です。受験者の皆さんも不安があると思いますが、専門職として一緒に働き、互いに切磋琢磨する仲間が増えることを、福祉職一同楽しみにしています。



早川保育園

主事補 鈴木 彩

入庁2年目

小田原市役所を志望したきっかけ

小田原市は海や山など、自然がたくさんあり、子ども達が成長していくのにとっても適した環境であると思ったからです。私自身も小田原市出身の“おだわらっこ”で、小田原市の公立園で、豊かな自然の中、伸び伸びと育ってきました。保育士を目指す中で、自分が育った小田原の環境に魅せられ、豊かな自然の中で、温かい地域の方々と共に、小田原市の子ども達の成長を支えていきたいと思い、志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

現在は0歳児クラスの担任として、子ども達と一緒に遊んだり、散歩に出て自然に触れたりしています。それとともに、食事、排泄、睡眠などの生活の援助を行い、子ども達の成長を支援しています。子ども達が降園した後は、その日の振り返りや、次の日の保育の準備を行っています。子ども達の笑顔をたくさん見ることができ、子ども達の日々の成長に寄り添い、保護者と喜びを共有できることがこの仕事のやりがいだと感じます。

小田原市で働く魅力

小田原市の魅力は何といっても自然が豊かなことです。私の勤務している早川保育園は、箱根の山々に囲まれ、南には綺麗な相模湾が広がっています。晴れた日にはとても景色が良く、子ども達と行く散歩は保育士の楽しみの一つでもあります。また、歴史を感じることもできる小田原城もあり、春になると桜もとても綺麗です。様々な景色の変化と共に、季節の移りも感じることができます。また、地域の方々もとても温かく子ども達のことを見守ってくれていて、人の温かさを感じられるのも魅力だと思います。

受験者へのメッセージ

小田原市の職員として働く先輩、同期、後輩はみんな温かく、前向きで明るい人ばかりです。私は新卒で、地元である小田原市役所に入庁しましたが、中には民間で働いていた方や、東北や九州など地方出身の方もいます。様々な方の話を聞くことで、自分とは違った考え方や価値観に出会うことができ、成長に繋がっていると感じます。小田原市で子ども達と一緒に楽しい毎日を過ごしてみませんか？みなさんと一緒にお仕事できる日を楽しみにしています。



建築課

主事 亀井 大樹

入庁 6 年目

小田原市役所を志望したきっかけ

私は生まれも育ちも小田原であり、小田原で過ごす時間が多かったため、地元である小田原に愛着があります。昔からのものづくりやスケッチを描くことが好きで、将来は建築関係の仕事に就きたいと考えていた中で、働くなら地元小田原のまちづくりに貢献したいと思ったことがきっかけです。一方で、幼い頃の記憶に比べ、まちが少し色あせて見えたのも事実です。小田原市役所の一員になって、小田原のまちの活性化の力になりたいと思い、小田原市役所を志望しました。

小田原市で働く魅力

小田原市で働く魅力としては様々なまちづくりに携わることが出来ることです。まちの強みとして、鉄道駅を中心に形成された市街地、数多くある歴史的資源などが上げられ、様々なまちづくりの計画を行っております。私も昨年度、「無住庵」という歴史的風致地区形成建造物の移築復元工事を担当しました。当時の古写真を参考にしながら試行錯誤し、当時に近い復元が出来たと思っております。このように建築職が配属される部署では、それぞれの視点から建築やまちに係ることができ、どの業務もどこかでまちにつながっています。

受験者へのメッセージ

公務員は毎日定時上がりで残業も少ないというイメージですが、正直そんなことはありません。業務量が多いときはそれなりの時間がかかっています。しかし、その分やりがいと達成感は多くありますので、小田原市役所に入庁して良かったと思っています。就職活動は自分が何をしたいか、どう貢献したいかなどを考える良い機会です。小田原市に少しでも興味がある方は、是非受験してみてください。また、小田原市役所は趣味やスポーツも盛んですので、公私ともに充実できると思います。

現在の業務内容、仕事のやりがい

私が所属している建設部建築課は、市有建築物の新築・増築・改修等、幅広い工事種別のなかで設計・積算・工事監理など建築に関わる全般的なことを行っています。基本的には一つの工事に対し、設計から工事完了までの工程を全て行います。工事監理をしていく中で、設計通りにうまくいかない時、形になるまでに何度も検討を重ねた時など、苦勞する事が多々あります。しかし、自ら設計した建物が出来上がった時と利用する市民や施設管理者に喜ばれた時は、それ以上の充実感を得るため、やりがいのある仕事だと感じました。

小田原市役所を志望したきっかけ

もともとのづくりに興味があった私は、大学でも土木に関することを学び、学んだことを人のために地元で活かしたいと思いました。そのなかでも小田原市は自身も学生時代からよく利用していたことから愛着もあり、慣れ親しんだまちを守っていくことができれば良いと思ったのがきっかけです。

小田原市は人口も多く、また交通の便も良いことから観光客も多いので、インフラ整備がとても重要なまちといえます。

人々が意識しなくても当たり前に見える状態を維持し続ける「緑の下の力持ち」をぜひ私にも担わせていただけないかと思い志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

私が所属する農政課の農地整備係では、主に農業を営む方々が使っている道路（農道）や水路を修繕したり、各地の田んぼに水を行き渡らせるため、市内のいたるところの河川や水路に水門があるので、水門の点検改修を行ったりしています。通れなくなったり、使えなくなるとは多くの方が困ってしまうので、迅速な対応が求められる大切な業務です。

だからこそ、無事に業務を終えられた時には達成感や充実感を感じることができ、実際に市民から「ありがとう」と言って頂けることも多いので、また頑張ろうというやる気にも繋がります。

小田原市で働く魅力

小田原市は自然に恵まれていて山や海があるため、農林業や水産業に関わることができる課があり、小田原城という観光名所もあるので、歴史を守っていくことができる課もあります。色々なことを経験できるチャンスがたくさんあるので、自分の知識の幅も広がられると思います。いくつになっても新しいことを体験し続けられるのは小田原市の魅力だと思います。

受験者へのメッセージ

これから初めて社会に出る方もいれば、他の仕事を経験してから入ることになった方もおり、それぞれだと思いますが、これから小田原市で働きたいという気持ちはみなさん同じはずです。一緒に向上心を持って働けるのを楽しみに待っています。



農政課

主事 田島 寛刀

入庁 2 年目

小田原市役所を志望したきっかけ

大学卒業後は、地元の小田原市を離れて、民間企業で6年間工事現場の施工管理業務に携わっていました。自治体が発注する工事を納める仕事をしていく中で、発注される工事がどのような計画の基で、どのように設計されているのかということに興味湧き、自治体で働きたいと思いました。各自治体の中でも、子供の頃から親しみのある小田原市がとても住み良いまちであったため、これからも市民が安心して暮らせるまちにしたいと思い、小田原市役所を志望しました。

これまでで一番印象深かった業務

入庁した年に市内の全小中学校の普通教室に空調機器を設置する事業が始まりました。中途採用で入庁したのですが、空調機器に関する知識が無く、担当者として無事に事業を終わらせられるのか不安に思っていました。業務を進める中で知識のない私では判断できない局面が多かったのですが、課内の先輩職員から丁寧に指導していただけただけで、無事に事業を終えることができ、夏場でも快適に学習できる環境を市内の小中学生に提供できたことがとても印象深く感じています。

現在の業務内容、仕事のやりがい

市有建築物の新築や、老朽化に伴う改修工事等の設計、工事監理を行っています。現場に向き、既存設備の改修範囲や新設設備の配置を計画し、作図した設計図を基に工事の内訳書を作成して設計金額を算出します。工事着手後は、施工打ち合わせや、現場の進捗に合わせて立会検査を行います。工事完成後、市民の生活基盤を支える建築設備が新しくなり、住み良いまちづくりに貢献できたという実感が、やりがいとなっています。

受験者へのメッセージ

私が転職で入庁に至ったのは前職に不満があったからではなく、小田原市が好きだったからです。実際に働くと、何事も順風満帆に進むわけもなく、辛い場面もあるのが現実です。そうした時、そもそも何のために就職したのかを振り返ると、確信して思う志願動機があれば、どんな場面においても頑張ることができると思います。受験者の皆様も強い気持ちを伝えれば、面接官も耳を傾けて聞いてくれるので、頑張ってください。



建築課
主任 瀬戸 博晃
入庁7年目

建築課

主事 平山 大智
入庁2年目



小田原市役所を志望したきっかけ

小田原市役所へ入庁する以前は民間企業で7年間、工事現場の現場代理人として施工監理を主にしていました。いろいろな地域で様々な方々と出会い、いろいろなことありましたが、楽しく仕事をしてきました。

会社で働きながら時間が過ぎていく中で、これからは工事関係の仕事をしていくのならば、もっと自分の思い入れのある地域で仕事がしたいと考えてようになりました。そんなことを考えていたときに、小田原市で電気技術の採用試験を行っているを知り、学生時代を過ごした小田原に役立てるのであれば、ぜひ働いてみたいと思い志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

建設部建築課は4つの係に分かれています。市営住宅管理係、市営住宅計画係、建築係、そして私が所属する設備係です。それぞれの担当はまったく違う業務内容ですが、協力し合い業務を行っています。

設備係は、市有建築物の新築・増築・改修工事の設計・積算・工事監理、予算見積の作成を主にしています。それ以外にも市営住宅の軽微な修繕を自ら行うこともあります。

自分の設計で完成した物件を市民の方々に利用していただいたときや、自分で修繕した市営住宅設備を住民の方に利用いただき喜んでもらった時はとてもうれしいものです。

これまでで一番印象深かった業務

商業施設やお城、陸上競技場などいろいろな業務に携わらせていただいているのですが、時間や施工条件の制約がある工事はどれも強く印象に残っています。

制約があるとなると、設計段階から施工に要する時間や条件を考慮して工法を意図して選定します。そのような工事を行っている中で、設計の意図を請負業者がしっかり理解して工事を行い、予定通りに完了したときは、毎回心の中でガッツポーズをしています。受変電設備の一斉入替工事などはそのようなやりとりがたくさん詰め込まれていますので、どれも印象深いです。

受験者へのメッセージ

私の場合は中途採用でした。入庁当時に上司から、民間企業ならではの知識をどんどん教えてほしいと言われました。その言葉が物語るように、とても輪の中に入りやすく、いろいろなことをプラスに考える先輩がたくさんいる職場です。ステップアップ、挑戦するといったプラス思考で採用試験に臨むことが大切だと思います。頑張ってください。



水質管理課
主事 小島 大輝
入庁6年目

小田原市役所を志望したきっかけ

小田原で育ち、小田原に対して「誇り・愛着」をもって高校生まで過ごしてきました。小学生の社会見学では水道局の高田浄水場を見学したこともあります。そんな“ふるさと小田原”に学んだことを少しでも活かせればと思い志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

所属課の業務は、管路を除いた水道水をつくる施設、水質の維持管理となります。化学職は、ソフト面の水質検査、水運用、薬品管理などの業務を担当しています。ソフト面だけでなく、水質計器や薬品注入設備の点検業務、高木伐採や塗装改修をはじめとする小規模工事の発注などハード面の仕事も行います。

これらの業務は、ライフラインのひとつである水道システムを支え、給水人口17万人以上の「いのち」に直結します。責任が重い業務ですが、その分、やりがいを持てるとしています。

小田原市で働く魅力

化学職の配属先には、生活基盤を支える水道局の浄水場（水質管理課）や環境部の清掃工場（環境事業センター）、公害問題を取り扱う環境保護課があります。

浄水場や清掃工場がない自治体もあるなか、小田原市は化学職として活躍の場が多く、また他の専門職の職員と協力しながら業務を進めるため、様々な考え方に触れ、スキルも向上できると思います。

受験者へのメッセージ

化学を詳しく知っている方というより、これまでの人生経験と学んだ化学の切り口で、自分で考え、責任をもって最後まで業務に取り組める、そんな人間力のある方をお待ちしています。

小田原市役所を志望したきっかけ

実習先の保健師さんが乳幼児健診に来られていたお子さん全員のお名前を把握され、お母さんたちも顔の見える関係ができていた様子を見て、こんなふうにお母さんたちが困ったときに頼ることのできる存在になりたいと思い、保健師を目指しました。

小田原は、大学生活の4年間を過ごした土地であったこともあり、市民の方々と直接関われる機会の多い市役所を志望しました。

現在の業務内容、仕事のやりがい

私は健康づくり課の母子保健係で働いています。主に乳幼児健診や親子教室等を担当しています。また、地区を受け持ち、家庭訪問や健康教育等も行っています。

相談や健診等で「話ができすぎてびっくりしました。」と来た時よりも笑顔で帰られる様子を見て、日々やりがいを感じています。また、お母さんやお子さん、高齢者の方など多くの方々と関わることができ、その方々の人生の一部に寄り添えることも保健師という仕事の魅力の一つだと思っています。

小田原市で働く魅力

年齢層の近い同期や先輩方がおり、悩みを相談しやすい環境であること、また、経験豊かな先輩方も多くいるため、いろいろな意見や助言を聞くことができ、多くのことが学べます。さらに小田原市は自然にあふれており、交通の便が良いことも魅力だと感じています。

受験者へのメッセージ

「保健師の役割とは何か」ということを考えることが多く、勉強の毎日です。最初は分からないことや不安なことだらけかと思いますが、先輩方が暖かく丁寧にサポートしていただけます。みなさんと一緒にお仕事ができるのを楽しみにしています。



健康づくり課
主事 小岩井 真美
入庁3年目